

ドザえもんがいらてくれたら、
今日も強い。

THE ドザえもん展 TOKYO 2017

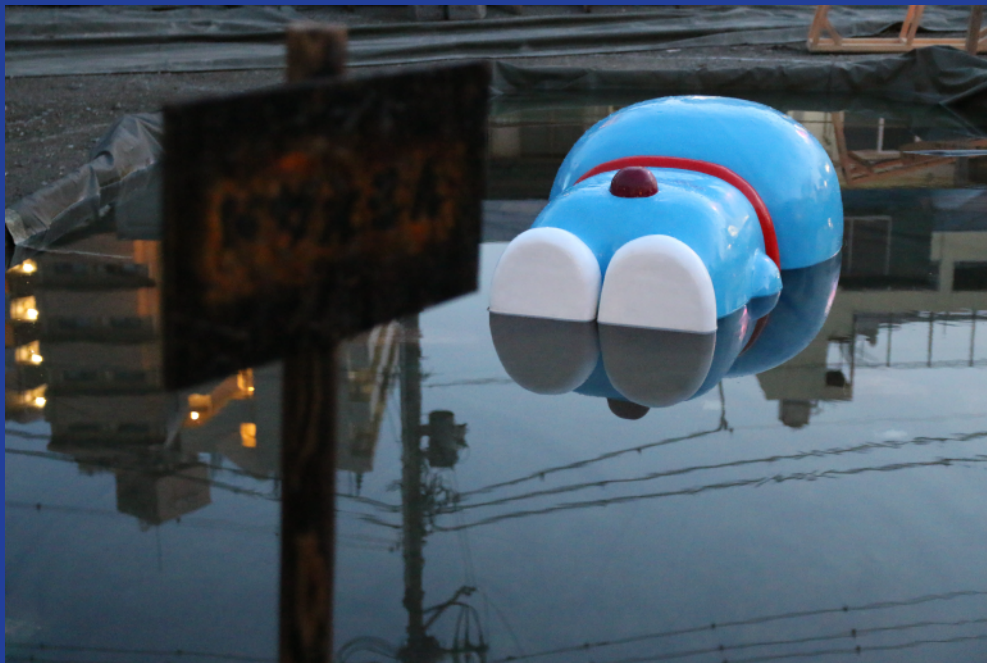
eitoeiko (東京都新宿区矢来町 32-2 東京メトロ東西線神楽坂駅矢来口より徒歩 5 分)

2017 年 12 月 2 日(土) - 2017 年 12 月 23 日(土・祝) 12:00 - 19:00

(日月休廊)

参加アーティスト：岡本 光博 制作協力：橋本 修一 (グラフィックデザイナー) 特別寄稿：工藤 健志 (青森県立美術館総括学芸主幹)

URL : <http://eitoeiko.com/> [THE ドザえもん展 TOKYO 2017](#) [検索](#)



©2017 Okamoto Mitsuhiro All Rights Reserved. Photo courtesy of Haruka Iharada

「ドザえもん」は言葉遊びの作品。私の“オリジナル”作品として、ある漫画から引用し、タイトルはカタカナと平仮名で表記しているが、元になっている言葉は「土左衛門」と漢字で表記する。江戸時代の大相撲の力士の名前であり、水で溺れて亡くなった死体が、その力士に似ていたのだという。江戸時代の言葉が現代にも生き続けているように、引用した漫画もまた、昭和から現在に至るまで、世代を超えて支持され続けている。

岡本 光博

岡本光博

THE ドザえもん展 TOKYO 2017

開催期間 2017年12月2日(土)～2017年12月23日(土・祝) 開廊 12:00～19:00 会期中日月休廊

参加アーティスト

岡本 光博

1968年京都府生まれ。滋賀大学大学院修了。主な個展に平成26年「マックロポップ」、平成28年「69」以上 eitoeiko、平成29年の参加展覧会に「ラブラブショー2」青森県立美術館、「ARTZUID」アムステルダム、水族館劇場「廃墟のるなばあく」(横浜寿町・横浜トリエンナーレ関連プログラム)など。

制作協力

橋本 修一(グラフィックデザイナー)

スペシャル

自由を育み、あくなき想像力をかき立てる漫画やアニメが、巨大コンテンツに回収されようとする昨今。情報の氾濫する21世紀社会に、可能な限りの欣慕と憧憬と恩返しをこめて、文化の浮き沈みを表現いたします。アートの社会を写す鏡としての機能をさぐる美術家、岡本光博の作品とともに、会期中にあらわれるかもしれない様々な反応も、展示の一部として公開させていただきます。

癸生川 栄 (eitoeiko 代表)

お問い合わせ

ei@eitoeiko.com 担当：癸生川 (きぶかわ)

鑑賞者からのメッセージ

工藤 健志 (青森県立美術館総括学芸主幹)

2000年の「キッズアートワールドあおもり」で展示された《ドザえもん》から17年。満を持して開催される個展が、今回の「THE ドザえもん展 TOKYO 2017」である。思えば、この間に日本の現代アートシーンは、著作権ビジネスに大きくすり寄っていった。前回の出品から、その後著作権に関わるさらなる問題提起を続ける岡本が再び「ドザ」の新作を制作してくれたことが嬉しい。さらに、この17年の間にキャラクタービジネスも目覚ましい商業偏重化を遂げた。その「権化」を再び選び、「遺体」を制作した彼はまさに皮肉や風刺を好んだ藤子・F・不二雄の後継世代といえるだろう。国民的キャラクターと、最先端の現代アートとの「真」なるコラボレーションに、多くの観客が瞠目するにちがいない。

ACCESS

▶ eitoeiko (エイトエイコ)

東京都新宿区矢来町 32-2

03-6873-3830

www.eitoeiko.com

東京メトロ東西線神楽坂駅
2番出口(矢来口)より徒歩5分

